

令和6年度 第5回三条市こども未来委員会会議録	
日 時	令和6年12月20日（金）午後1時30分～2時45分
場 所	三条市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	出席委員：真壁委員長、佐藤副委員長、山村委員、与斉委員、福田委員、山田委員、近藤委員、宮島委員、石塚委員、金子委員、高橋委員 欠席委員：栗山委員、森山委員、山崎委員、工藤委員 事務局：平岡教育部長、小林子育て支援課長、小林課長補佐、相場子ども家庭サポートセンター長、五十嵐子育て支援係長、草野幼児・児童係長、石坂発達応援室主査、石田主任 傍聴者：なし 報道機関：なし
委 員 会 内 容	
宮島委員	【次第】 1 開 会 午後1時30分開会 2 あいさつ 平岡教育部長から挨拶 3 議 事 第3期すまいる子ども・若者プラン（案）について （小林課長） 第3期すまいる子ども・若者プラン（案）について（第6章）説明 【質疑】 資料68ページの表でさかえ学園、ただの郷学園の児童クラブについて、栄中央小学校は「さかえ児童クラブ」、栄北小学校は「いちい児童クラブ」、大面小学校についても「いちい児童クラブ」だと思う。また、ただの郷学園については長沢小学校は「長沢児童クラブ」笹岡小学校についても「長沢児童クラブ」だと思うが「飯田児童クラブ」になっている。整合性がとれないのではないかな。
小林課長	資料68ページの表は、小学校に対応する児童クラブではなく、学園区域にある児童クラブを記載させていただいた。例えば、三条嵐南学園区域には嵐南小学校と第一中学校がある、児童クラブは嵐南児童クラブとさんさん児童クラブがある、保育所等は嵐南保育所、本成寺保育園、北陽保育園、きらきら保育園、なでしこ青空保育園、新潟県済生会三条病院附属保育園たんぽぽがあると御覧いただきたい。分かりやすい表記については検討したい。
宮島委員	資料84ページの(6)子育て短期支援事業に記載してある「ショートステイ事業」「トワイライトステイ事業」、資料89ページ(18)子育て世帯訪問支援事業に記載してある「アセスメント」の表記が分かりにくい。 また、資料87ページ(12)子育て援助活動支援事業の「助けあい」、の「あい」は「合い」の方が分かりやすいのではないかな。

小林課長	分かりにくい語彙については注釈を付ける等して分かりやすい表記にしたい。ひらがな・漢字等の表記については、全体を通して再度点検し修正が必要な部分は修正していく。
与齊委員	資料 90 ページの(19)親子関係形成支援事業の中で「講義」と記載しているが、講義するのはどのような方か。
小林課長	現在三条市では実施していない。今後、これらの事業が実施できるように検討していく。
高橋委員	資料 89 ページ(18)児童育成支援拠点事業についてだが、現在、小学校では 15 人に 1 人、中学校高校では 50 人に 1 人が不登校になっているという統計が出ている。現在、地域活動支援センター事業を実施しており、不登校児を 3 人見ている。また、不登校児の中には ADHD などの発達障がいの子がいることも想像できるので、そこは福祉課で展開している合理的配慮の提供、代替えしやすい環境作りの一環として連携することができると思う。
小林課長	不登校児童、生徒が増えているのは認識している。必要に応じて様々な機関と連携し、最終的には子どもたちが生活しやすい環境を整える必要がある。様々な御意見をいただきながら実施に向けた検討をしようと考えており、その中で、福祉課等と連携できる部分については、連携していきたい。
真壁委員長	資料 89 ページ(17)子育て世帯訪問支援事業について、記載されているのは延べ人数でいいか。
小林課長	延べ人数。第 6 章の中で、資料 78 ページの児童クラブ、資料 85 ページ養育支援事業は実人数で掲載しているので、記載方法について、事務局で検討する。 (小林課長) 第 3 期すまいる子ども・若者プラン（案）について（第 7 章）説明 【質疑】 特になし。
真壁委員長	全体を通して他に意見等は。
金子委員	資料 90 ページ(19)親子関係形成支援事業について、親子関係の形成は産後 0 日から、もしかしたら妊娠期から始まっていると考える。出産後 1 ～ 2 か月は最も大変な時期でその時期に産後うつ等になったら、その後の親子関係に大きく関わる。産後 0 日から親子関係の形成が上手くいく仕組み作りを是非検討いただきたい。

小林課長	実施に向けて検討を進めていく。
石塚委員	資料 77 ページ(3)実費徴収に係る補足給付を行う事業について、「世帯所得の状況等により助成する」と記載してある。助成までいかなくても、着なくなった制服等を集めて、それを安く提供するという必要だと思う。 また、資料 89 ページ(18)児童育成支援拠点事業について、先ほど、福祉課との連携の話があったが、教育委員会や学校関係者は、この事業には入ることはないのか。
小林課長	資料 77 ページ(3)実費徴収に係る補足給付を行う事業については、国の制度に基づいて実施しているものである。御提案の事業については、以前、高橋委員からも同様の提案があったかと思うので、どのような形で事業ができるかどうかも含めて検討していく。 資料 89 ページ(18)児童育成支援拠点事業については、教育委員会や学校も当然関わっていて、現在、教育委員会では適応指導教室などを実施しているし、民間によるフリースクール事業等も実施している。学校教育課の職員と連携し、事業を進めていきたい。
佐藤委員	合計特殊出生率について、全国や新潟県と比較して三条市が低い原因は何か。
小林課長	原因は1つではないと思う。全国や新潟県の数値と比較して数値がここまで下回ったのは初めてなので喫緊の課題であると認識している。子どもを産み、育てるには企業や地域の方の協力が必要不可欠と思っている。三条市の合計特殊出生率が低い理由について、詳細には分析していないが、関係部署と情報を共有しながら、様々な施策を展開していこうと思う。
高橋委員	若者貧困が結婚や出産をできない理由となっていて、そこが少子化に繋がっている。20代前半から30代にかけては大学の奨学金の返済等があり、結婚や出産どころではない。子育て支援の部分については、先ほど金子委員からも話があったが、子どもを産む前からケアしていかないと子どもを産むにつながらない。総人口を維持するためには合計特殊出生率が少なくとも2.07を維持する必要がある、そのためには子育てをしない若者世代にも経済的な負担を軽減しないといけない。来年の2月から前橋市で、若手議員や市職員の有志等20～30人で、勉強会を行う。子育て、ゴミ減量、福祉、総合政策関係の課題を勉強する。担当課だけではなく、包括協定、包括連携という考え方が必要になってくる。国では厚生労働省、環境省、こども家庭庁がくつつくことは難しいが、「市だったらやることのできるのではないか。」と前橋市長に話をしたことから、実現した勉強会。三条市でも課を飛び越えて情報共有し、総合計画に基づいた事業を包括的に進めていくことが大切だと思う。三条市のできるのであれば、お手伝いさせていただきたい。
小林課長	単独の部署でできること、他部署にまたがってやらなければならないこ

	とがあると思う。連携という言葉になると思うが、そこについては、これから検討していこうと思う。
近藤委員	資料 86 ページ(10)一時預かり事業について、何故、拠点施設において行っている休日一時保育が入らないのか
小林課長	こちらに記載してある「一時預かり事業」については、国の地域子ども・子育て支援事業として市が要綱を定めて実施している事業であり、子育て拠点施設で行っている休日一時保育は入れていない。
真壁委員長	資料 89 ページ(17)子育て世帯訪問支援事業について、産後の事業では、宿泊を伴うものがあつたが、この事業でも困った時に宿泊を伴う施設があるといいと思う。駆け込み寺のような、一時保護を行う施設が行っていると思うが、もう少し気軽に利用できる施設があるといいなと常々思っているが、そのような取組は難しいのか。
小林課長	不安や負担を抱えた家庭を訪問支援員が訪問してその家庭での育児家事の支援を行うもので数値を出した。委員長御指摘の部分については、産後ケアや短期入所という形で行っているが、どこまでできるかというところについては、受入側の体制等もあるので、全て市町村ではできないということも現実的にはあると思う。必要な支援については、しっかりとできるよう検討していきたい。
真壁委員長	事務局からその他として何かあれば、お願いしたい。
小林課長	皆様からいただいた御意見を参考に、これから最終案の作成作業を進めていく。記載の方法等含めて事務局に一任いただきたいと思います。今後のスケジュールについてだが、最終案を取りまとめ後、2月中にパブリックコメント、教育委員会定例会や三条市議会に報告する予定である。委員の皆様にはパブリックコメントを実施する前に最終案を送付させていただくのでお気付きの点があつたら教えてほしい。以前配布したスケジュールでは、第6回の未来委員会を2月28日と案内したが、次回は3月24日(月)午後1時30分から開催に変更し、第3期すまいる子ども・若者プラン案の提示及び令和7年度開設予定の小規模保育事業の認可についての意見聴取をさせていただく予定である。

(午後2時45分閉会)